

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	人権啓発事業	部課名	行政経営部・秘書広報課
		作成者	青山 康德
①めざすまちの姿	01 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない		
②大施策	子ども高齢者障がい者等への虐待やDV等を減らす		
③中施策	市民の知識と自覚を高め、早期発見への協力を促進する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	対象者が人権に関する知識と理解があり、人権侵害が行われない生活を送ることができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・人権擁護委員事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市民相談日における人権擁護委員への相談件数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		13	15	17	19	21
	実績値	11	9				
単位	件						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			1,512千円	1,478千円	
人件費	a 事業費合計		321千円	296千円	322千円
	正規職員	人数	0.2人	0.2人	
		b 金額	1,191千円	1,182千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		1,191千円	1,182千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			1,512千円	1,478千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			22円	21円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	人権擁護委員による人権啓発は、法務省の事業として行われている。人権啓発が行われることで、人権侵害が行われない環境づくりを目指している。負担金が主な支出であり、コストの削減は難しい。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	広報、ホームページで市民相談日において、人権相談が行えることを周知する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	広報、ホームページで具体的な相談例を紹介し、人権相談をPRする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 特になし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 なし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	褒章・表彰事業	部課名	行政経営部・秘書広報課
		作成者	山田 隆貴
①めざすまちの姿	14 子どもがずっと育ってきた豊明を大好きでいる		
②大施策	子どもがずっと育ってきたとよあけを大好きになる環境をつくる		
③中施策	家族や地域の人にとよあけを好きになる風土を醸成する		
④中施策事業の対象	市に貢献した人及び団体		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	より多くの市民や団体が市に貢献している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・表彰条例に基づく被表彰事務		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市民一人当たりの 被表彰者割合	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0.02	0.02	0.02	0.03	0.03
	実績値	0.02	0.02				
単位	%						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			736千円	1,135千円	
人 件 費	a 事業費合計		676千円	1,075千円	1,297千円
	正規職員	人数	0.01人	0.01人	
		b 金額	60千円	60千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	1人	
		金額	0千円	736千円	
人件費合計		60千円	796千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			736千円	1,135千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			11円	16円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	表彰条例に基づき適正に行われている。
-----------------------------	--------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	特になし	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	特になし	
今後、改善・拡大する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 特になし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	市民相談事業	部課名	行政経営部・秘書広報課
		作成者	青山 康德
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	サービスや支援を充実し、負担を軽減する		
④中施策事業の対象	豊明市在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	対象者に相談事案が発生した際に相談できる窓口が確保されており、安心して生活することができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・市民相談事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
市民相談実績件数		事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		目標値		380	380	380	380	380
		実績値	380	347				
単位	件							
		事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		目標値		0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			6,593千円	6,564千円	
人件費	a 事業費合計		1,832千円	1,836千円	1,884千円
	正規職員	人数	0.8人	0.8人	
		b 金額	4,761千円	4,728千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		4,761千円	4,728千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			6,593千円	6,564千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			96円	95円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	市民相談事業は、市民が相談したいときに相談できる体制を整えている。相談件数は、前年度と同水準である。今後も相談体制を維持し、市民が安心して生活が送れるようにしていく。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	広報、ホームページで市民相談の実施を周知する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	相談の内容ごとに適切に案内ができる体制を確保する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 特になし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 なし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	広聴事業	部課名	行政経営部・秘書広報課
		作成者	青山 康德
①めざすまちの姿	22 行政は積極的に市民からの意見を吸い上げる工夫や努力をしている		
②大施策	積極的に市民の意見を吸い上げる		
③中施策	子どもから大人まで意見を述べる仕組みや機会を増やす		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	対象者が市政に関心を持ち、行政に対して意見を述べている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・市長へのEメール、手紙、FAX		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市長へのEメール の件数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		130	130	130	130	130
	実績値	128	118				
単位	件						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			1,849千円	1,894千円	
人 件 費	a 事業費合計		63千円	121千円	75千円
	正規職員	人数	0.3人	0.3人	
		b 金額	1,786千円	1,773千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		1,786千円	1,773千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			1,849千円	1,894千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			27円	28円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	市長へのEメール等は、市民から直接市長へ意見を述べるができる機会となっている。メールの件数は昨年度と同水準であった。コストは人件費が主なものであり、これ以上の削減は難しい。今後も、市民の意見を吸い上げる機会としての役割を担っていく。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	広報、ホームページで市長へのEメール等の実施を周知する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	広報、ホームページで市長へのEメール等の実施を周知する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 特になし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 なし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	職員研修事業	部課名	行政経営部・秘書広報課
		作成者	塚田 力
①めざすまちの姿	25 市職員の顧客サービス向上の意識が高く、市民のほうを見て仕事をしている		
②大施策	顧客サービス向上の意識を高め、市民本位の仕事をする		
③中施策	市民に満足してもらおうという意識を高く持ち、サービスの向上を図る		
④中施策事業の対象	市職員		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	多様化する市民ニーズを敏感に受け止め、市民の立場に立って公務を行う職員になっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・公募制を主体としている派遣研修事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
公務で必要とする 専門知識や能力の 取得率(受講者/ 職員数)	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	目標値			35	35	36	36	37
	実績値	33.9	35.6					
単位	%							
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	目標値		0	0	0	0	0	
	実績値	0	0					
単位								

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			11,263千円	11,082千円	
人 件 費	a 事業費合計		5,312千円	5,173千円	6,116千円
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,951千円	5,909千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		5,951千円	5,909千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			11,263千円	11,082千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			164円	161円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	多様な行政ニーズに対応していくためには、個々の職員の能力とやる気が不可欠となります。さらに職員研修に求める効果や期待は高まっていくものと考えます。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	特になし	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	特になし	
今後、改善・拡大する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 特になし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	広報事業	部課名	行政経営部・秘書広報課
		作成者	青山 康德
①めざすまちの姿	26 市民にとって必要な情報が提供され、行政が取り組んでいることが市民に分かりやすい		
②大施策	市民にとって必要な情報や行政の取り組みを市民に分かりやすく提供する		
③中施策	市民にとって必要な情報を分かりやすく提供する		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 <small>(対象をどのようにしたいですか)</small>	「広報とよあけ」に対象者にとって必要な情報が掲載されており、対象者に情報が伝わっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 広報事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
「広報とよあけ」 の印刷部数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値	/	26,200	26,200	26,300	26,300	26,300
	実績値	26,100	26,200				
単位	部						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値	/	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			20,006千円	19,263千円	
人件費	a 事業費合計		11,079千円	10,399千円	13,095千円
	正規職員	人数	1.5人	1.5人	
		b 金額	8,927千円	8,864千円	
	非常勤一般職員等 <small>(事業費に含む)</small>	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		8,927千円	8,864千円		
② 補助金等(収入)			2,380千円	2,050千円	0千円
③ コスト(①-②)			17,626千円	17,213千円	
市民一人あたりコスト <small>(③/市の人口(評価対象年度末時点))</small>			256円	250円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	広報は市の情報を市民に提供するために欠かせない手段である。予算は印刷製本と配送費が主であり、これ以上のコスト削減は難しい。引き続き、市民にとって必要な情報を分かりやすく提供できよう事業の役割を果たしていく。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	広報の表紙やコーナーなどのリニューアル	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	より市民にとって伝わりやすい広報を目指し、さらなるリニューアルに向けた方針の策定	
今後、改善・拡大する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 特になし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 なし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	ホームページ管理事業	部課名	行政経営部・秘書広報課
		作成者	青山 康徳
①めざすまちの姿	26 市民にとって必要な情報が提供され、行政が取り組んでいることが市民に分かりやすい		
②大施策	市民にとって必要な情報や行政の取り組みを市民に分かりやすく提供する		
③中施策	市民が必要なときに見やすく手軽に行政の情報を受け取れるようにする		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤、在学を問わず豊明市に関心のある人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	ホームページに対象者にとって必要な情報が掲載されており、対象者がホームページを閲覧することで情報を取得できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ホームページ事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
ホームページのアクセス数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		180,000	300,000	310,000	320,000	330,000
	実績値	178,581	179,143				
単位	件						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			7,142千円	7,091千円	
人件費	a 事業費合計		0千円	0千円	935千円
	正規職員	人数	1.2人	1.2人	
		b 金額	7,142千円	7,091千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		7,142千円	7,091千円		
② 補助金等(収入)			675千円	550千円	0千円
③ コスト(①-②)			6,467千円	6,541千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			94円	95円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	ホームページは本市の情報を市内外に発信するための欠かせない手段である。平成28年度はCMS導入前のホームページであり、アクセス件数は平成27年度と同水準であった。平成29年度はCMSを導入し、ホームページを全面リニューアルする。スマートフォンからのアクセスにも対応できるため、より手軽に情報が受け取れるようになる。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	CMSを導入し、ホームページの全面リニューアルを行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	特になし	
今後、改善・拡大する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 特になし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 なし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	総合教育会議事務	部課名	行政経営部・秘書広報課
		作成者	山田 隆貴
①めざすまちの姿	38 すべての子どもが質の高い学びに参加し、生きるための学力が向上している		
②大施策	子どもが質の高い学びに参加し、生きるための学力が向上する環境をつくる		
③中施策	学校で質の高い教育を受けられる環境を充実させる		
④中施策事業の対象	市長及び教育委員会		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	教育の目的、課題等が共有され、効果的な教育行政の推進を図っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の課題、目指す姿の共有 ・市と教育委員会との円滑な情報共有 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
教育大綱の基本方針事項についての協議率		事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値				33	33	55	55	55
実績値		33	33					
単位	%							
事業実施年度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値			0	0	0	0	0	
実績値		0	0					
単位								

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			60千円	60千円	
人件費	a 事業費合計		0千円	0千円	0千円
	正規職員	人数	0.01人	0.01人	
		b 金額	60千円	60千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		60千円	60千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			60千円	60千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			1円	1円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	実施目的はおおむね達成されているので、引き続き実施する。
-----------------------------	------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	特になし	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	特になし	
今後、改善・拡大する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 特になし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	秘書渉外事務	部課名	行政経営部・秘書広報課
		作成者	山田 隆貴
①めざすまちの姿	40 市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている		
②大施策	まちを良くしていくために情報を収集し、失敗を恐れずチャレンジする		
③中施策	チャレンジしやすい環境をつくる		
④中施策事業の対象	市長及び副市長		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	多くの行事に出席することで、多くの情報や知識を収集することができる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 行事への出席		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
出席率	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		84	85	87	88	90
	実績値	83.1	81.1				
単位	%						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			7,799千円	8,425千円	
人件費	a 事業費合計		1,848千円	2,516千円	2,436千円
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,951千円	5,909千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	1人	
		金額	0千円	736千円	
人件費合計		5,951千円	6,645千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			7,799千円	8,425千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			113円	122円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	適正な行事に出席し、おおむね計画通りの成果を得ている。
-----------------------------	-----------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	同一日に重複する行事をやむを得ず欠席する場合があります、日程を調整できる行事については調整し、また行事の予定を事前に公開することでできるだけ出席できるようにする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	同一日に重複する行事をやむを得ず欠席する場合があります、日程を調整できる行事については調整し、また行事の予定を事前に公開することでできるだけ出席できるようにする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 特になし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 特になし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		